

## 会議録【要点筆記】

会議名称	第2回 米沢市教育振興基本計画検討委員会	
開催日時	令和7年8月25日(水) 13時15分~14時35分	
開催場所	米沢市役所4階 委員会室	
出席者	(委員等氏名) (所属団体等) 委員長 山口 玲子 米沢市小学校長会会長/米沢市立興譲小学校長 委員 土田 知良 米沢市中学校長会/米沢市立第二中学校長 委員 吉田 直史 米沢市内高等学校長会/山形県立米沢興譲館高等学校長 委員 西辻 祥太郎 山形大学工学部准教授 委員 石崎 毅 山形県立米沢女子短期大学教授 委員 高梨 弘子 米沢市私立幼稚園・認定こども園連合会 委員 佐藤 繁 米沢市芸術文化協会会長 委員 曽根 伸之 米沢市上杉博物館館長 委員 大河原 真樹 米沢市スポーツ協会副会長 委員 安部 剛 米沢市民生委員・児童委員連合協議会 委員 舟山 康子 公募委員	
欠席者	委員 宇山 栄一 米沢市社会教育委員・米沢市公民館運営審議会委員長 委員 佐藤 美洋 米沢市PTA連合会会长 委員 遠藤 正紀 米沢商工会議所青年部	
事務局出席者	教育長、教育管理部長、教育指導部長、教育総務課長、社会教育文化課長、社会教育文化課主幹、スポーツ課長、学校教育課長、適正規模・適正配置推進主幹、教育総務課長補佐兼総務主査、教育総務課上席専門員、教育総務課主任(総務担当)	
会議次第	1 開会 2 教育長あいさつ 3 協議 (1) 基本理念及び基本方針(案)について (2) 基本目標及び施策(案)について (3) その他 4 その他 5 閉会	
会議資料	・次第 ・出席者名簿 ・資料1「基本理念・基本方針(案)について」 ・資料2「基本理念・基本方針・基本目標・施策(案)について」 ・資料1参考資料「総合教育会議における意見」 ・資料1参考資料「まちづくり総合計画(案)広報よねざわ2025年8月号」 ・参考資料3「第7次山形県教育振興基本計画(概要版)」	

## 会議内容

### 【1 開会】

省略

### 【2 教育長あいさつ】

- ・毎年、教育研究所が主催となって夏季休業中に教育研究発表会、教育講演会を実施しており、その冒頭に話した内容を情報提供としてお話をさせていただく。
- ・現行の教育振興基本計画の中に『新たな時代にマッチした思いやりを持った「がってしない子ども」の育成』とあり、その解説という意図で『2つのキーワードから「がってしない子ども」を考える』と題してお話しした。
- ・キーワードの1つ目は、大切にしたい心構えということで、リスペクトという言葉を紹介した。2つ目がレジリエンスで、「がってしない」と同じではないが、似ている言葉として紹介した。
- ・「がってしない」という言葉は、人によって様々印象が違い、現在、日常生活でも多く使う言葉でもないため、共通理解を図ることが必要と思っている。新しい先生方や他地区の先生方もいらっしゃるので、こうとらえてもらえたなら良いという想いでお話しした。
- ・私見だが、「がってしない」というのはよっぽどすごい人で、30人中1人か2人ぐらいというイメージがあった。そんなにタフな人ばかりではないと思っている。
- ・今は昔と違って非常に難しい時代だと思う。子ども達自身も社会の雰囲気も違い、SNSの発達もあり友達との関わり方も変わっている。そうした中で、子ども達が生きていくのはなかなか難しい。一筋縄ではいかない時代なので、やみくもに力任せではなくいいからことから、知恵を出し、創意工夫しながら、友達の力も借りながら、何とか乗り越える、そんな力が必要ではないかと思って、レジリエンスという言葉を持ってきた。
- ・子ども達は一人ひとり違いがあり、もともと「がってしない」子どももいれば、なかなかそうなれないお子さんもいるので、一人ひとりの子どもに合った壁を乗り越えさせる経験を学校でさせていただきたいと先生方にお願いしている。
- ・「がってしない子ども」という言葉は、平成23年の第3期教育文化計画から出てきており、もう15年も学校で使っている。そういう点では、学校の先生方にとっては大変身近で使い慣れた言葉と思っており、これからも大切にしたいと思っている。今回の計画についても、解釈の解説をつけながら本編の中で取り上げる取扱いが良いと個人的には思っている。
- ・様々社会が変わってきて難しい時代であるが、簡単に諦めずに知恵を絞って乗り越えていくような子ども達を育てていきたいと思っている。

### 【3 協議】

#### (1) 基本理念及び基本方針（案）について

事務局から資料1に基づき説明があった後、委員から意見等が出された。意見等は下記のとおり。

委員長

- ・欠席者からも事前に意見をいただいている。委員から基本理念の「しあわせ」という言葉をひらがなにしている理由について質問があったので、その理由を説明いた

だきたい。

事務局

- ・ひらがなで「しあわせ」と表記することで、わかりやすく柔らかな感じがする。また、「子どもから大人まで、障がいのある人もない人も、外国人も含めて、米沢を新たな故郷に選んだ人も」という文言が基本方針にあり、ひらがなの方が読みやすいということもある。さらに漢字にすると「辛い」という漢字にも似ているため「つらい」といったニュアンスのとらえ方も避けるためにもひらがなにしている。

委員

- ・資料1の基本方針2「多様性を認め合い、ともに学び合う人づくり」に感じ入った。自分自身は米沢で生まれ育った人達の中で生きてきた。そして今は、本当に多様なルーツや背景を持った皆さんとこの街で生きてると感じる。キーワードは「この街で今共に生きている」ではないか。これが私達が進んでいく方向として一番近いと思う。また、基本方針2番の「多様性を認め合い」という部分に、「他の地域から移住した人」という文言も入っているところが非常に心を動かされた。これからは、同質性の高い社会より様々な背景のある皆さんのが刺激となっていく社会を目指したい。それが子ども達に良い影響を及ぼしていくと思う。

委員長

- ・欠席の委員の方からは、『「しあわせが循環する米沢』について詳細に説明をされている』、『学びを通して互いに相乗効果を高めることは、学びを通じて人々の「つながり」や「関わり」を創り出し、協力し合える関係づくりの土壤を耕す社会教育の学びに通じる』といった意見をいただいている。

委員

- ・内容については賛成。なお、細かな表現とか重複している表現について、事前に事務局に話しており、委員の皆様にご了承いただきたいと思っている。

委員長

- ・表記表現のところで、多少の修正を提案いただいているということで、その点について事務局はよいか。

事務局

- ・通じやすい文面を検討したい。

委員長

- ・他に意見が無いようなので、理念と基本方針について提案のとおりということでまとめてさせていただく。

(2) 米沢市教育振興基本計画について

事務局から、資料2に基づき説明があった後、委員から意見等が出された。意見等は下記のとおり。

委員長

- ・項目がたくさんあるので、まず基本目標について協議を行う。

委員

- ・令和5年にこども家庭庁が設立され、こども基本法という法律が令和5年4月から施行されている。一番の大きなポイントが、すべての子どもが個人として尊重され

るとか、子どもの人権に関わるようなことが規定されている。

- ・市役所でいうと健康福祉部の分野になるが、そちらの意見も聞いていただき、文言として子どもの人権に関するに入れ込むかの判断をお願いしたい。

#### 事務局

- ・本計画では学びに焦点を置いており、基本目標の「互いを尊重し、時代の変化にしなやかに対応できる子どもの育成」という内容には「互いを尊重し」という点に人権の要素も入っている。子どものころから人権分野の教育にも力を入れていきたいと考えている。

#### 委員長

- ・他に意見が無いようであれば、いったん基本目標については閉じ、施策と施策の方向に進ませていただく。

#### 委員

- ・施策の方向のC3の「連携体制の充実」について、小中学校を除いての連携体制という意味合いなのか、どうとらえるのかというところが1点ある。もう1点、前段で協議した基本理念等にも関わることもあるが、「なせば成る」という文言がどこにも登場しないので、どこかに包括されているのか、または敢えて外しているのか教えていただきたい。

#### 事務局

- ・C3の連携体制について、小中学校も含めて考えているが、文言として入ってなかったため、検討の材料にさせていただきたい。
- ・「なせば成る」は上杉鷹山公の言葉で、米沢にとって非常に重要な言葉と考えている。特に今回の中学校の統廃合に伴う新設校について、「なせば成る」という趣旨の言葉も入っているので、非常に重要と認識している。
- ・例えば、基本方針の1番目の説明文の下から2行目について、「自らの決定に責任を持って」というところを「米沢の地に連綿と受け継がれてきた「なせば成る」の精神で」という修正を考えたところだが、いかがか。

#### 委員長

- ・今日の全体の資料を見たときに「なせば成る」という言葉が入っていないのではないかという意見を受けて、基本方針の説明文に盛り込む事務局案があったがいかがか。
- ・教育長のあいさつでも「がってしない」という、これまで米沢の教育で大事にしてきた言葉があった。基本理念にある「米沢らしさを活かした学び」という部分の「米沢らしさ」につながるポイントかと思うので、皆様からも意見をいただきたい。

#### 委員

- ・「なせば成る」と「がってしない」という2つのキーワードがあるというのが、米沢らしさを表しているのでいいと思う。誰もが知ってるキーワードが文面の中にあることによって、その周辺の文章が見えてくるということが起こると思う。なので、そういうキーワードが、たくさんの人々に与える影響を考えたときに、「米沢らしさ」というキーワードとともに、その2つを入れることに賛成する。

#### 委員

- ・教育長のあいさつで「リスペクト」と「レジリエンス」という話をされていて、具

体的でいいと思った。「がってしない」「なせば成る」等の言葉を使っていただければと思う。

委員長

- ・「米沢らしさ」というキーワードとしての「なせば成る」「がってしない」という言葉を盛り込んでいただけたらという意見を頂戴した。
- ・その他の部分で、学校教育、社会教育、文化芸術、スポーツとすべてのジャンルを網羅した形で施策、施策の方向が記載されているのでたくさん意見を頂戴したいが、いかがか。

委員

- ・今回の案の中で、スポーツを通じた人材育成について、2つの施策によくまとめられていると思う。施策の方向C8の「地域の活力を向上させ幸福度を高める」、C9の「アスリートの発掘・育成・強化」、「部活動の地域展開等に伴う地域スポーツの支援体制を構築する」という点にまとまっていてよい。
- ・質問だが、スポーツ基本法の改正を受けて書き出したところ等があれば教えてほしい。

事務局

- ・スポーツ基本法については、スポーツ庁のホームページを参照し、2つの施策にまとめた。特に、部活動の地域展開がこれからの課題と考え記載を行った。

委員

- ・今回の改正スポーツ基本法で「国家戦略としてのスポーツのあり方」ということがあるので、ぜひ米沢市の戦略として頑張って欲しいと思う。

委員

- ・C5において「キャリア教育」という言葉が出ていて興味を持った。最近は子ども達に向けて「これからどういう仕事をしていくのか」という本がたくさん出版されている。また、個人的に注目しているのは、近年、女の子に向けて、これからどう生き方をするかという本をよく目に見る機会がある点だ。これまでの偉人伝は主に男性が主流だった感がある。私自身は、出版される本で女の子のキャリア教育を応援する様相は歓迎したい。
- ・C5の「親子のふれあいやさまざまなキャリア教育」という言葉を拝見したときに、具体的にはどんなことを想定して行うのかを伺いたい。

事務局

- ・社会教育文化課で自主事業として行っていることを紹介させていただく。まず、保護者と乳幼児を対象にした親子の触れ合い講座を年4回開催している。キャリア教育は、青年の家の事業を当課で実施しており、職業体験や、今年度から実施はないが、昨年度はイングリッシュキャンプを行っていて、そういう事業が施策の方向性に記載しているものの中になっている。

委員

- ・今は少子化が著しく、致し方ないことだと思うが、小さいうちから子育て教育のようなものが必要かと思う。中学生のチャレンジウィークなどを行っていて大変よいか、小さいうちから乳幼児と関わる機会をたくさん持つて欲しいと思う。子どもがかわいいとか、子育てしたいとか、子どもが欲しいという気持ちを関わりの中で育

てていって欲しいと思っているので、そうしたことも背景に入れていただければ大変ありがたい。

- ・C3の文言には小中学校が抜けていたが、大きなつながりの中で子どもを育てていくのだと思うので、検討ではなくぜひ文言として入れていただきたい。特に幼稚園から小学校へ、小学校から中学校への接続期の部分で課題や問題があつたりするので、具体的に連携の仕方などを明確にしていかなければならないと思う。互いに連携し合っていい教育ができるのではないかと思う。

#### 事務局

- ・乳幼児との関わりでは、米沢チャレンジウィークを始め、中学校家庭科の授業でも幼稚園・こども園・保育所に伺わせていただき体験を行っている。米沢市では、かなり協力いただいている、継続できればと思っている。
- ・C3について、小中学校はすべての関わりの中で大事な部分になるので、小中学校という文言は盛り込んでいきたいと思っている。
- ・C5に関して、社会教育文化課の自主事業の他に、例えばナセBAや児童会館でも乳幼児向けの自主事業を行っている。そういうものを展開しながら、子育てをする保護者の方に子育てしやすいような教育というものを考えていきたい。また、当課では社会教育の分野を担当しているが、子育て支援課や健康課と連携を密にしながら「子育てするなら米沢」をキーワードに、事業を展開して参りたい。

#### 委員

- ・C2の「自分の可能性に挑戦できる環境や居場所」は抽象的な表現だが、その次の「安心安全でおいしい給食」、「ＩＣＴを存分に活用できる環境」は具体的になっている。「自分の可能性に挑戦できる環境や居場所」はかなり曖昧だが、どういう方向性を目指していくのか知りたい。C1でも「新しい時代を生き抜く力を育む」はどういう教育をしていくのか。「多面的・多角的な視点と柔軟な適応力を発揮して」ということも、具体的にはどういうことなのか気になった。
- ・スポーツ分野等はかなり具体的な方向性を記載しているが、C1、C2に関して少し抽象的な印象を受ける。C1の「複雑化する社会に自分事として関わろうとする態度」も、世の中複雑化していくとは思うが、複雑化と呼んでいるのは大人から見てであって、子ども達は複雑化していると思っていないかもしれない、ということも気になった。C1、C2はもう少し具体的にした方がいいのではないかと思った。

#### 事務局

- ・C2については、施設のことを考えて作成し、学校教育の中で教室での環境であるとか、子ども達がより学べるためにどのようなものが必要かということをイメージしたが、曖昧になっていた部分もあるかと思う。今の意見を伺い、考えていきたいと思った。
- ・C1の「新しい時代を生き抜く力」は、グローバル化やＩＣＴ化を記載することを考えたが、敢えて絞り込まないほうがいいと考えこのような表記にした。確かに曖昧な部分があるので、考えていきたい。

#### 委員

- ・C5に「親子の触れ合い」と「キャリア教育」が併記されてるが、キャリア教育は生き方、あり方といった非常に大きな意味の言葉と考えたときに、親子の触れ合い

とキャリア教育を併記する表現の仕方は何とかならないかと思った。もし改善の余地があれば検討いただきたい。

#### 事務局

- ・改善させていただきたい。
- ・キャリア教育は、社会教育文化課の他に学校教育課も関わる部分なので、学校教育課も関わりながら考えていきたい。

#### 委員

- ・C2に「居場所」という表現を使っている。基本目標A1を学校教育の分野として据えるということだが、「居場所」の一番根源的な部分は家庭にあるのではないかと思う。また、キャリア教育をA2の家庭教育の分野に限定する形になっているが、これも局所的に使うのはどうなのかと思っている。
- ・先ほど委員からあったように、キャリア教育は本当に根源的な自分の方とか生き方とかを考える意味合いも網羅しているべきものであって、家庭の中での信頼関係とか、親子関係とか、もしくは家庭の中で一緒に子どもと親とが育っていくといった次元の部分も含めて、これからは、教育振興基本計画の全体で考えていく必要があるのではないかと思う。
- ・家庭自体を育てる力や子育てをしながら親も社会性を身に付けていくといった「家庭力」のとでもいうべきものを、地域全体で見守り、育んでいくという見方も、学校教育とか社会教育といった枠組みを超えて、必要な考え方ではないかと思っている。
- ・したがって、基本目標に関して、A1は「子ども」の育成で、A2、A3、A4は「人材」の育成という説明があったが、A1の「しなやかに時代の変化に対応できる」というのは、むしろ「人材」の育成として教育振興基本計画全体として目指すべき目標になってくるのではないかと思う。
- ・先ほど委員から「新しい時代を生き抜く力は抽象的だ」という意見もあった。教育総務課長から、基本目標の中の「しなやかに」という表現は、一人ひとりを尊重したり、変化に適応したり、責任を持って挑戦していったりというのが「しなやか」という意味であると説明があったように、「しなやかに」「新しい時代を生き抜く力」は、学校教育はもとよりだが、さまざまな場で、生涯を通じ、家庭からもスポーツからも育てていく大事な力だと思う。
- ・このような意味で基本目標のA1は学校教育、A2は社会教育という考え方ではなく、教育振興基本計画全体として、学校教育、社会教育、家庭教育などの総体をより横断的な見方でまとめた方がいいのではないかと思う。

#### 事務局

- ・検討させていただきたい。

#### 委員

- ・C6の2行目で「デジタル活用や多世代交流により文化の継承と魅力発信を図る」とあるが、ここに「多様な文化に触れる」というような文章が欲しい。現在も多様化しているし、文化も広くなってきてるので、そういうものに触れられるような機会が与えられるという一行が欲しいと思う。
- ・また、「文化の継承と魅力発信を図る」の中に「新しい創造」や「新しいものを創

り出せる」という内容を入れられると、「過去や現在は学びながら、自分達の文化が創っていける」というニュアンスがぜひ入って欲しい。

- ・アニメ、漫画、CG、ゲーム、eスポーツといったものが、日本の現在の文化では世界に通用するものとして広まっている。そういうものが教育の中ではなくてもいろんな場面で、子ども達がただ遊びではないレベルで学ぶ機会が与えられるような文言になれば尚うれしい。
- ・ますむらひろしさんの展覧会に全国からファンが来るとか、伊東忠太さんも妖怪の作品を書いていて、最近展覧会がありテレビで取り上げられるとか、米沢の文化として高い評価を受けていることもあるので、柔軟な考え方があってもよいと思う。

#### 事務局

- ・委員からは、新しい文化に取り組む方との交流や魅力発信の必要性を日頃からお聞きしており、C6に「デジタル活用」や「多世代交流」という記載を行ったが、より多世代の方が親しみやすい文言を考えていきたい。

#### 委員長

- ・欠席の委員から「歴史・伝統文化と文化芸術とは、基本目標としては別項目とするのが望ましいのではないか」という意見を頂戴したが、委員は、表記として気になる点はあるか。

#### 委員

- ・歴史・伝統文化と文化芸術を明確に分けた方がよりはっきりするという考えには賛同するが、ある程度集約しないと目的が増えすぎたりして明確にならないということも鑑みながらまとめていただきたい。
- ・C7の中に歴史や伝統文化があるが、米沢の良きものに草木塔など自然を通した文化もあるので、自然というのも広い視野に入れて、芸術文化、歴史、自然といったものが基本目標A3の中で盛り込まれていければよいと思う。

#### 委員長

- ・欠席の委員からも「米沢の自然を生かした教育」ということで、自然の豊かさにも触れられている。事務局で検討いただきたい。

#### 委員

- ・委員からお話があった基本目標に関して、対立意見になるが、A1は教育活動なので、子どもの教育という視点で記載してよいと思う。子ども達がそういう力を持って身に付けて、その後に米沢を創っていく人材になっていくという風にした方がよいのではないか。小学校で人材を育成しているという表現が教育にはそぐわない気もするが。
- ・P D C Aサイクルという、もともとは企業が作った商品開発サイクルをいろいろなところで使っているわけだが、教育の研究者の中にはP D C Aではなく、P D S、P l a nで計画を立てて、D oでやってみて、S e eで子ども達をよく見る、こちらの方が教育には合っているとおっしゃっている方がいる。私もそれに賛成で、教育という視点を1つ考えたとき、子どもの教育という視点で書いたほうがいいかと思う。

#### (3) その他

省略

【4 その他】

省略

【5 閉会】

省略